



資料提供

(県政・南部同時)



提供日：令和8年(2026年)9月15日(火)
部署：琵琶湖環境部
所属：滋賀県立琵琶湖博物館
担当：芳賀、松岡宏、上坂
電話：077-568-4811
E-mail：info@biwahaku.jp



琵琶湖博物館 30 周年記念式典と国際シンポジウムを開催します

概要

- ・令和8年(2026年)10月24日(土)午前10時より琵琶湖博物館ホールで30周年記念式典を開催します。
- ・式典に引き続き、午前11時より午後3時40分まで、記念国際シンポジウム「シーボルト江戸参府200周年記念 シーボルトコレクションから学ぶ 水辺環境のために“記録”を残すこと」を開催します。

詳細

平成8年(1996年)に開館した琵琶湖博物館は今年開館30周年を迎えます。これを記念して10月24日(土)午前10時より、琵琶湖博物館ホールで関係者をお招きして30周年記念式典を開催します。

式典に引き続いて開催する国際シンポジウムは、現在開催中の企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖ー」の関連事業となり、トキや魚類の標本をお借りしたオランダの博物館2館から講師を招待しています。また、近畿大学名誉教授(元魚類学会会長)の細谷和海博士、当館の川瀬成吾主任学芸員、琵琶湖博物館うおの会の中尾博行会長による講演があり、水辺の環境保全のために標本や記録を残すことの重要性について話し合います。

また、12時15分から13時30分までは、当館セミナー室で、シンポジウムの趣旨にちなみ、滋賀県と淀川流域で水生生物の調査や保全活動を行っている学生や個人・企業・行政機関等による17件のポスター発表と交流会を開催します。

シンポジウムは同時通訳有、参加費無料です。定員は200名。しがネット受付サービスによる事前申込が必要です。なお、ポスター発表は自由参加で、事前申込は必要ありません。

30周年記念式典

【日時】令和8年(2026年)10月24日(土)9:30~10:55

【会場】琵琶湖博物館ホール

【主な出席者(予定)】

滋賀県議会議長、博物館活動関係者(博物館協議会、研究審査会、連携企業、はしかけ、フィールドレポーター等)、滋賀県関係者

【次第】

9:30 受付開始、会場開室

10:00 開式 知事式辞、来賓紹介、来賓代表御挨拶、祝電披露

10:20 博物館の歩み紹介 館長

10:35 お祝いセレモニー 草津歌劇団によるパフォーマンス

10:50 謝辞 副館長

琵琶湖博物館 30 周年記念国際シンポジウム

「シーボルト江戸参府 200 周年記念 シーボルトコレクションから学ぶ 水辺環境の未来のために“記録”を残すこと」

【日時】令和 8 年(2026 年)10 月 24 日(土)11:00~15:45

【会場】琵琶湖博物館ホール・セミナー室

【主催】滋賀県立琵琶湖博物館

【協力】オランダ国立ナチュラリス生物多様性センター・オランダ国立ライデン世界博物館

【プログラム】

11:00 開催挨拶

11:05 「オランダのナチュラリス生物多様性センターに所蔵されているシーボルト・コレクションの日本産魚類」

エスター M. ドンドロップ (ナチュラリス生物多様性センター, 上級コレクションマネージャー)

マルティン J.P. ファン・オーウェン (ナチュラリス生物多様性センター, 名誉学芸員)

11:45 「保全分類学 - 標本・記録を残すことの大切さ -」

細谷和海 (近畿大学名誉教授)

12:15 昼食休憩&ポスター発表(セミナー室)

13:30 「シーボルトによる、ヨーロッパの人々への琵琶湖の紹介」

ダン・コック(ライデン世界博物館学芸員)

14:00 「シーボルトの江戸参府と日本の淡水魚」

川瀬成吾 (琵琶湖博物館主任学芸員)

14:30 「市民が記録を残す意義 - うおの会の活動から -」

中尾博行 (琵琶湖博物館うおの会会長)

15:00 休憩

15:10 パネルディスカッション

15:40 閉会

シンポジウムの申込について

申込方法：しがネット受付サービス

申込開始：令和 8 年(2026 年) 9 月 15 日(火)

定員：200 名(先着順)

参加費：無料



<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/apply-procedure/2090308847068595610>

ポスター発表・交流会

「滋賀県水産試験場が遺したもの～これまでとこれから～」滋賀県水産試験場

「滋賀県生きものデータバンク - 生物多様性評価と施策立案を支える情報整備 -」琵琶湖環境科学研究中心

「魚卵の分布調査とデータベースの公開」国立環境研究所

「水辺の底生動物からみた琵琶湖岸の環境変遷」西野麻知子

「翔んで全国～琵琶湖より学びを込めて～」滋賀県立河瀬中学校・高等学校科学部魚班

「米川定期調査」NPO 法人近江淡水生物研究所

「記憶を記録に 研究会誌『淡海生物』の発刊」淡海生物研究会

「琵琶湖に接続する大学構内水路を活用した在来魚類相復元に向けた試み」湖東淡水魚相復元プロジェクト

「川とホタルを守る ホタルの学校」ホタルの楽校

「生き物の未来のための『活動の場所』」高槻市立自然博物館あくあびあ芥川

「菓子屋が守る里山と命 - 寿長生の郷におけるイチモンジタナゴ保全の実践 -」叶匠寿庵

「びわ湖生命(いのち)の水プロジェクト」 株式会社ブリヂストン
「トンボがつなぐ企業と自然 ―生物多様性びわ湖ネットワークの挑戦―」 生物多様性びわ湖ネットワーク
「工場にトンボ 58 種！？ 希少生物が集う自然共生サイトの魅力」 積水樹脂株式会社
「森と水辺を未来へつなぐ～ ダイハツ「はぐくみの森 竜王」～」 ダイハツ工業株式会社
「企業と博物館がつなぐヤマトサンショウウオの未来」 株式会社ダイフク
「工場とハリヨが共生する未来へ ～絶滅危惧種ハリヨの保全活動～」 旭化成株式会社
(敬称略)